

# 全国学力・学習状況調査について

## 1. 調査の目的

- 国が、義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- 各教育委員会、学校等が、全国的な状況との関係において自らの教育及び教育施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- 各学校が、各児童生徒の学力や学習状況を把握し、児童生徒への教育指導や学習状況の改善等に役立てる。
- 児童生徒一人ひとりが、自らの学習到達状況を正しく理解することにより、自らの学力や生活に目標を持ち、また、それらの向上への意欲を高める。

## 2. 調査実施日

令和5年4月18日（火）

## 3. 調査の対象

泉佐野市立日新小学校 第6学年，全児童

実施児童数（ 86 人）

## 4. 調査の内容

### （1）児童生徒に対する調査

#### ア 教科に関する調査

- （ア）小学校調査は、国語及び算数とし、中学校調査は、国語、数学及び英語とする。
- （イ）出題範囲は、調査する学年の前学年までに含まれる指導事項を原則とし、出題内容は、それぞれの学年・教科に関し、以下のとおりとする。
  - ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
  - ② 知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等
- （ウ）調査問題では、上記①と②を一体的に問うこととする。出題形式については、国語及び算数・数学においては、記述式の問題を一定割合で導入する。英語においては、「聞くこと」、「読むこと」、「話すこと」及び「書くこと」に関する問題を出題し、記述式の問題を一定割合で導入するとともに、「話すこと」に関する問題の解答は、原則として口述式によるものとする。

#### イ 質問紙調査

調査する学年の児童生徒を対象に、学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査（以下、児童を対象とする場合は「児童質問紙調査」、生徒を対象とする場合は「生徒質問紙調査」、児童及び生徒を対象とする場合は「児童生徒質問紙調査」という。）を実施する。

### （2）学校質問紙調査

学校における指導方法に関する取組や学校における人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する質問紙調査（以下「学校質問紙調査」という。）を実施する。

※平成29年度より、文部科学省から示される都道府県の平均正答率及び市町村の平均正答率は、整数となっております。

## 令和5年度全国学力・学習状況調査の分析（国語）

### 1. 全体の傾向

- ・平均正答率を見ると、泉佐野市より7ポイント下まわっており、全国と比較すると8.2ポイント下まわっている。また、全国及び大阪府と比較し、上位層の割合が低く、中位層、下位層に位置する児童の割合が高い。
- ・分類、区分をみると全ての区分において全国よりも平均正答率をかなり下まわっている。特に学習指導要領の「書くこと」においては、その差が13ポイント以上あり、大きな課題であると考え。評価の観点を見ると、「知識・技能」が全国と比べて5ポイント下まわっており、「思考・判断・表現」は、11ポイント下まわっている。さらに、問題形式においては、選択式の正答率、記述式の正答率が全国と比較すると、それぞれ8ポイント、11ポイント下まわっている。基礎基本の学習の定着に加えて、学んだことを活用し、書いて表現することにも課題がある。

平均正答率（本校 59／泉佐野市 62／大阪府 66／全国 67.2）

### 2. 学力状況調査より（本校正答率/全国正答率）

国語	特徴がみられた設問
<p>●課題がみられた項目</p> <p>1二 【川村さんの文章】の空欄に学校のも目づくりの問題点と解決方法を書く。(19.5/26.7)</p> <p>1三(2)イ 【川村さんの文章】の下線部イを、送り仮名に気をつけて書き直したものと適切なものを選択する(87.8/93.1)</p> <p>1四 【川村さんの文章】の特徴の説明として適切なものを選択する(70.7/79.8)</p> <p>2一 【資料1】と【資料2】に書かれている内容として適切なものを選択する(82.9/90.0)</p>	<p>●●特に課題がみられた項目</p> <p>2二 相田さんが【資料3】の情報をどのように整理しているかについて説明したものと適切なものを選択する(57.3/62.0)</p> <p>2四 資料を読み、運動と食事の両方について分かったことをもとに、自分ができそうなことをまとめて書く(42.7/56.2)</p> <p>3一(1) 【インタビューの様子】の傍線部ア(～ということだと思いますが、合っていますか)のように質問をした理由として適切なものを選択する(63.4/73.6)</p> <p>3一(2) 【インタビューの様子】の傍線部イ(～というのは、どのような姿ですか)のように質問をした理由として適切なものを選択する(62.2/74.0)</p> <p>3二 寺田さんと山本さんが、どのような思いでボランティアを続けているのかについて、分かったことをまとめて書く(57.3/70.3)</p> <p>3三 敬語の使い方をまとめた【谷さんのノートの一部】の空欄に入る内容として適切なものを選択する(42.7/57.6)</p>

### 3. 学習状況調査より

質 問 項 目	本校	全国	10%○ 5%◇	差
国語の勉強は好きですか	38.9	61.5	○	22.6
国語の勉強は大切だと思いますか	87.2	94.2	◇	7.0
国語の授業の内容はよくわかりますか	79.0	85.7	◇	6.7
国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役立つと思いますか	88.4	92.8		4.4

国語の授業で、言葉には、相手との好ましい関係をつくる働きがあることについて学んでいますか	74.4	83.9	◇	9.5
国語の授業で、立場や考えの違いを意識して話し合い、自分とは違う意見を生かして自分の考えをまとめていますか	65.1	76.8	○	11.7
国語の授業で、書いた文章の感想や意見を学級の友達と伝え合い、自分の文章のよいところを見つけていますか	53.5	71.1	○	17.6
国語の授業で、物語を読むときに、登場人物の性格や特徴、物語全体を具体的にイメージし、どのような表現で書かれているのかに着目していますか	72.1	82.3	○	10.2
今回の国語の問題では、解答を文章で書く問題がありました。それらの問題について、どのように解答しましたか。	68.6	80.7	○	12.1
解答時間は十分でしたか	48.8	64.1	○	15.3

○アンケート調査での「国語の勉強は大切だと思いますか」「内容はよくわかりますか」「将来、社会に出たときに役立つと思いますか」は、全国より下まわるものの、肯定的な意見を示す児童が多いのに対し、「国語の勉強は好きですか」の肯定的回答が40%を切り、全国より22ポイント下まわっており、大きな課題であるとする。国語の学習が、実際自分が生活していく上でどのように役に立つことを実感できる授業づくりを続けるとともに、目的意識、相手意識をはっきりさせ、「できるようになった」「楽しい」と感じられる授業づくりに取り組む必要がある。

○アンケート調査での「書いた文章の感想や意見を学級の友達と伝え合い自分の文章のよいところを見つけていますか」の肯定的回答は53%で、全国より17ポイント以上下まわっている。書いた文章や話し合ったことを学級の友だちと共有し、友だちのよい表現を学んだり、自分のよいところを見つけたり、成長した点を実感したりということを教員が意識して取り組む必要がある。

○国語の「書くこと」に関する問題では、特に「分かったことから自分にできることを書く」という問題と、「分かったことをまとめて書く」という問題が、全国より13ポイント以上下まわっている。その力をのばすためには、問題文をしっかり把握し、わかったことに下線を引くなど、見つけ出す力を確実に身に着けることが大切である。特に、グラフやメモ、話し合いの文章など複数の資料から大切なところを読み取る練習が大切である。その上で、分かったことを要約してまとめる練習や、分かったことから自分の考えを表現する練習を意識して取り組んでいきたい。「読みとる」という力を大切にしながら、「書く」過程の中の一つひとつの基本的な力をスモールステップで身に着けていく必要がある。

○「書くこと」では無回答率が高く、8ポイントから15ポイントとなっている。どの段階で児童がつまづいているのかを、細かく分析し、きちんと把握する必要がある。問題文の量の多さにあきらめてしまっている児童、問題文の内容が把握できていない児童、問題文の内容を把握はできてもどこから考えていいかわからない児童などが混在していると考えられる。無回答率を減らし、粘り強く取り組めるように児童の実態を正確にとらえることが大切だと感じる。また、長文の読解や、問題文の内容を把握するという機会や時間の確保も行っている必要があると考える。

令和5年度全国学力・学習状況調査の分析（算数）

1. 全体の傾向

- ・平均正答率を見ると、全国の62.5ポイントに対し本校は56ポイントと6.5ポイント下まわっている。全国及び大阪府と比較し、中位層に位置する児童の割合が高い。
- ・分類・区分で見ると、学習指導要領の「図形」においては、全国と比較し10ポイントの差があり課題が大きいと考える。またプログラミング的思考にも課題がみられ、筋道を立てて考える力が本校児童には必要であると考えられる。

平均正答率（本校 56／泉佐野市 59／大阪府 62／全国 62.5）

2. 学力状況調査より（本校正答率／全国正答率）

算数	特徴がみられた設問
<p>○概ねできていた項目</p> <p>○伴って変わる二つの数量の関係が、比例の関係ではないことを説明するために、表の中の適切な数の組を用いることができる</p> <p>1(2) 椅子の数が2倍になっても、高さは2倍になっていないことについて、表の数を使って書く (93.9/88.5)</p> <p>●課題がみられた項目</p> <p>○伴って変わる二つの数量が比例の関係にあることを用いて、知りたい数量の大きさの求め方と答えと式を用いて記述できる</p> <p>1(3) 椅子4脚が7kgを基に、48脚の重さの求め方と答えを書く (51.2/55.5)</p> <p>○正方形の意味や性質について理解できる</p> <p>2(2) テープを折ったり切ったりしてできた四角形の名前を書く (82.9/87.2)</p> <p>○正三角形の意味や性質について理解できる</p> <p>2(3) 切って開いた三角形にするためにテープを切るときのAの角の大きさを書く (17.1/24.9)</p> <p>○求め方と答えを式や言葉を用いて記述し、その結果から条件に当てはまるかどうかを判断できる</p> <p>3(2) 三種類のファイル23人分を全部並べた長さの求め方と答えを記述し、全部のファイルを棚に入れることができる (48.8/56.7)</p> <p>○示された棒グラフと複数の棒グラフを組み合わせたグラフを読み、見出した違いを言葉と数を用いて記述できる</p> <p>4(3) 二つのグラフから、30分以上の運動をした日数が「1日」と答えた人数に着目して、わかることを書く (47.6/56.2)</p>	<p>●特に課題がみられた項目</p> <p>○台形の意味や性質について理解しているかどうかを見ることができ</p> <p>2(1) テープ2本を直線で切ってできた四角形の名前とその四角形の特徴を選ぶ (46.3/59.8)</p> <p>○高さが等しい三角形について、底辺と面積の関係を基に面積の大きさを判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できる</p> <p>2(4) テープを直線で切ってできた二つの三角形の面積の大きさについてわかることを選び、選んだわけを書く (7.3/20.8)</p> <p>○(2位数)÷(1位数)の筆算について、図を基に、各段階の商の意味を考えることができる</p> <p>3(4) 66÷3の筆算の仕方を説明した図を基に、筆算の商の十の位に当たる式を選ぶ (31.7/47.6)</p> <p>○百分率で表された割合について理解している</p> <p>4(1) 示された基準量と比較量から、割合が30%になるものを選ぶ (35.4/46.0)</p> <p>○二次元の表から、条件に合う数を読み取ることができる</p> <p>4(4) 二次元の表から、読み取ったことの根拠となる数の組み合わせを選ぶ (42.7/64.6)</p>

### 3. 学習状況調査より

質 問 項 目	本校	全国	10%○ 5%◇	差
算数の勉強は好きですか	48.8	61.4	○	12.6
算数の勉強は必要だと思いますか	88.3	94.2	◇	5.9
算数の授業の内容はよくわかりますか	68.6	81.2	○	12.6
算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	83.7	93.3	◇	9.6
今回の算数の問題では、言葉や数、式を使って、わけや求め方などを書く問題がありました。それらの問題について、どのように回答しましたか	65.1	80.3	○	15.2
回答時間は十分でしたか	79.1	84.5	◇	5.4

- 「(2位数)÷(1位数)の筆算について、図を基に、各段階の商の意味を考えることができる」という趣旨で出されている問題では、全国平均を15.9ポイント下まわった。全体的にも同様の問題では正答率が低めである。等式について考える経験が少ないので、理解ができていないことや筆算の技能面ばかりに重点をおいた授業が多いため、筆算のしくみを説明することが難しい児童が多いと考えられる。そのため、説明する機会を増やしたり、問題文などに説明の書き込みをさせたりするとりくみを考えていきたい。
- 「2次元の表から、条件に合う数を読み取ることができるかどうかみる」という趣旨で出されている問題では、全国平均を21.9ポイント下まわった。2次元表と文を結んで考えることに課題が大きいと考えられる。問題文の要点を捉える練習や、問題文と表を連結する書き込み、情報に着目する練習を行う活動を取り入れていきたい。
- 「高さが等しい三角形について、底辺と面積の関係を基に面積の大小を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できる」という趣旨で出されている問題では、全国平均を13.5ポイント下まわった。問題の量感が乏しいため、問題を正しく読み取ることができないと考える。問題の量感を養えるように、具体物を取り入れながら授業を行っていきたい。
- 「今回の算数の問題では、言葉や数、式を使って、わけや求め方などを書く問題がありました。それらの問題について、どのように回答しましたか」という設問に対する回答より、既習事項を基にわからない問題に挑戦する力に課題がみられる。子どもが思考するためのツールとして、絵や図、数直線などを身につけられるように、自力解決後の交流に多くの考えを提示する時間を設けていきたい。また、どの学習でも根気よく最後までやりきる指導を徹底していきたい。
- 「算数の勉強は好きですか」「算数の授業の内容はよくわかりますか」という設問に対する回答より、算数の授業に積極的に参加できている児童が多くないと考える。自力解決の時間や、意見の交流の時間など、考えを比較できるような活動を取り入れ、主体的に授業参加できるようにしていきたい。

令和5年度全国学力・学習状況調査の分析（児童質問紙より）

設問内容種類別の全国との比較で差が大きく特徴のある項目

設問内容種別	本校の状況	本校<本校回答率/全国回答率>
【家庭生活の様子】	<p>○就寝時刻などの家庭での生活リズムが不規則であり、朝食をとっていない日もある。</p>	<p>○毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか。(54.7/81.0)</p> <p>○毎日、同じくらいの時刻に起きていますか。(73.2/90.5)</p> <p>○朝食を毎日食べていますか。(87.2/93.9)</p>
【家庭学習の様子】	<p>○自分で計画を立てて勉強する割合は低い。</p> <p>○平日も休日の家庭学習の時間が短い</p> <p>○英語の学習に ICT を利用している児童が全国より多い。</p> <p>○読書に時間をかける児童の割合が低い。読書の良さを感じる機会を増やし、読書に親しもうとする気もちを育てる。</p>	<p>○家で自分で計画を立てて勉強をしていますか。(学校の授業の予習や復習を含む)(44.2/70.7)</p> <p>○学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、一日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。(学習塾、家庭教師との学習、インターネット学習を含む)(40.7/57.1)</p> <p>○読書は好きですか。(60.5/71.8)</p> <p>○土曜日や日曜日など学校が休みの日に、一日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。(学習塾、家庭教師との学習、インターネット学習を含む)(15.2/24.7)</p> <p>○家庭学習の課題(宿題)として、どの程度PC・タブレットなどのICT機器を使用して、英語の発音を聞いたり英語を話す練習をしたりしていますか。(36.1/29.5)</p> <p>○学校の授業時間以外に普段(月曜日から金曜日)1日当たりどれくらいの時間読書をしますか。(電子書籍の読書も含む。教科書や参考書、漫画や雑誌は除く)(21.0/18.5)</p> <p>○昼休みや放課後、学校が休みの日に、本(教科書や参考書、漫画や雑誌は除く)を読んだり、借りたりするために、学校図書館・学校図書室や地域の図書館(それぞれ電子図書館を含む)にどれくらい行きますか。(4.7/13.4)</p>
【学校での学習の様子】	<p>○低学年のうちから自分と違う意見と出会う機会を増やし、違いを大切に作る素地を養っていく必要がある。</p> <p>○学校の授業等で ICT 機器の積極的な使用をしていく必要がある。</p> <p>○学習したことや話し合ったことを、自分たちの生活の中に生かすことができる力を育てる必要がある。</p>	<p>○5年生までに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか。(47.7/74.4)</p> <p>○自分と違う意見について考えるのは楽しいと思えますか。(52.3/76.5)</p> <p>○5年生までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用しましたか。(38.4/62.4)</p> <p>○あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか。(54.6/77.2)</p> <p>○学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか。(61.7/81.8)</p> <p>○授業で学んだことを、他の学習に生かしていますか。(64.0/81.9)</p>

<p>【自己肯定感】</p>	<p>○前向きな思い・幸せな気持ちを持てるように、一人ひとりを認め褒めることを増やし、成功体験を積みませるとともに、失敗してもよい雰囲気づくりをする必要がある。</p> <p>○夢や将来について考える機会を増やしていく必要がある。</p> <p>○地域の祭りに参加をしている児童はいるものの、地域のためにや社会のためにと考える児童は少ない。</p>	<p>○自分には、よいところがあると思いますか。 (66.2/83.5)</p> <p>○人が困っているときは、進んで助けていますか。 (75.6/91.6)</p> <p>○外国の人と友だちになったり、外国のことについてもっと知ったりしてみたいと思いますか。(58.1/72.5)</p> <p>○将来の夢や目標を持っていますか。(68.6/81.5)</p> <p>○学校に行くのは楽しいと思いますか。(73.2/85.3)</p> <p>○日本やあなたが住んでいる地域のことについて、外国の人にもっと知ってもらいたいと思いますか。 (67.4/78.1)</p> <p>○友達関係に満足していますか。(81.4/90.3)</p> <p>○人の役に立つ人間になりたいと思いますか。 (87.2/95.9)</p> <p>○普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか。(86.0/91.0)</p> <p>○将来、積極的に英語を使うような生活をしたり職業に就いたりしたいと思いますか。(48.8/52.5)</p> <p>○今住んでいる地域の行事に参加していますか。 (43.0/57.8)</p> <p>○地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか。(54.6/76.8)</p>
----------------	--	--

## 本校のとりくみ

### ◎これまでのとりくみ

本校ではこれまで以下のとりくみを進めてきた。

- ①基礎・基本を徹底した学習【授業・朝学・家庭学習など、やり切りの習慣化】
- ②学習規律の徹底【泉佐野スタンダードや日新小学校の心得をいかした月一回のふり返りなど】
- ③校内で自作したテストの実施【問題の出し方の工夫⇒結果を分析し指導につなげる】
- ④算数授業の進め方を学校全体で統一【図や絵を用いた自力解決自力発見型授業の充実】
- ⑤ノート指導【教員の研修などを通して指導の統一化を図る】

これらのとりくみの上に昨年度から研究教科を国語科とし、「書く力」の育成をめざして校内研究を進めてきている。昨年度は「言語活動を充実させること」、本年度は「文章モデルや文章の型などの提示方法等を工夫し、児童が自分の思いや考えが伝わるように書く力をつけるにはどうすればよいか」に焦点を絞り、国語の授業改善を推進している。その結果、国語科においては、昨年度に比べて全国や府との差が縮まった。しかし、「書くこと」や「国語の勉強が好きか」の学習に対する肯定的意見は、低い状況がある。そこで国語科において児童が主体的に活動でき、同時に基礎基本の力がつく授業づくりについて、全職員で研究を進めていく必要がある。また算数科においてはここ数年、全国との差がマイナスに大きく開きつつある。全教職員でこれまで積み重ねてきた指導方法について共通理解し、基礎基本の力を定着させるための演習時間の確保や図や絵を用いた自力解決型授業の充実を図り、児童自らの言葉で書いたり、話したりする活動時間を大切にして、根気よく最後までやりきる力や筋道を立てて考える力をつけていきたい。

### ◎これからのとりくみ

#### 学 習

○国語においては、長文を読むことや「書くこと国語科の学習への関心そのものにも課題がみられた。これらの結果を受けて、まず読み書きに関する基礎基本の定着に重点をおき、以下のことにとりくんでいく。

- ①目的意識、相手意識をはっきりさせ「楽しい」と実感できる授業づくりにとりくむ校内研究。
- ②書いた文章や話し合ったことを学級の友だちと共有し、友だちのよい表現を学んだり、自分の文章のよいところを見つけたり、成長した点を実感したりできる学習場面の充実。
- ③音読、速読、黙読の時間を確保し、大切などころに下線を引いたりすることで、問題文から大切などころを読み取る学習を充実させる。
- ④「読みとる」という力を大切にするとともに、「書く」過程の中の基本的な一つひとつの力をスモールステップで身に着けて行く授業づくりを進める。そして、分かったことを要約してまとめる学習や、分かったことから自分の考えを表現する学習に意識してとりくんでいく。
- ⑤授業での子どもの状況の把握、および、校内テストやアンケートから、子どもたちのつまずきの実態分析を進め、指導方法の工夫改善を進める。

○算数においては、問題の情報を読みとること、また、あきらめずに解決しようとする態度などに課題がみられた。これまで積み重ねてきた研究を大切にし、以下のことにとりくんでいく。

- ①問題を粘り強く読みとり、自らの言葉で考え表現し、子ども同士がつながる授業づくり
- ②必要な情報に着目し、見通しをもったり、書き込んだりする習慣をつけていく機会の確保
- ③実生活につながる問題場面や具体物の提示などで、数や量感が実感できるような学習場面の充実
- ④既習事項や図・絵などを使い、粘り強く問題を解決する過程を大切にする自力発見型授業の充実
- ⑤基礎基本の演習時間を確保し、根気よく最後までやりきる機会の確保

#### 学校生活

質問紙から分析した課題に対して、日々の学校生活を通して以下のことにとりくんでいく。

- ①話し合う活動を充実し、多様な考えにふれさせ、互いに認め合い、高め合える集団づくり
- ②学習のまとめや、テストに向けた家庭学習の充実を図るしかけ
- ③ICTの使い方や場面について考え、意図をもって使う時間の確保
- ④朝読書や電子図書の活用、委員会活動をいかした読書に親しむためのとりくみ
- ⑤特別活動や総合、学校生活のなかで、自分たちで考えて行動にうつし、成功体験を生む場面づくり